

導入しやすい契約形態

0円

初期費用は無料

0円

解約費用なし



1ヶ月ごとに契約更新できる

機能限定のお手軽なプラン	一番人気のおすすめプラン	家族の安否も確認できるプラン	グループ会社も利用できるプラン
ライトプラン	プレミアプラン	ファミリープラン	エンタープライズ
月額 6,800 円(税抜)	月額 8,800 円(税抜)	月額 10,800 円(税抜)	月額 14,800 円(税抜)
上限ユーザー数 50 ユーザー	上限ユーザー数 50 ユーザー	上限ユーザー数 50 ユーザー	上限ユーザー数 50 ユーザー
ご利用可能な機能	ご利用可能な機能	ご利用可能な機能	ご利用可能な機能
<input checked="" type="checkbox"/> 手動送信 <input checked="" type="checkbox"/> 自動集計 <input checked="" type="checkbox"/> 掲示板・メッセージ <input checked="" type="checkbox"/> LINE連携 (オプション) <input type="checkbox"/> 災害連動の自動送信 <input type="checkbox"/> ファイル添付 <input type="checkbox"/> SmartHR人事情報連携 <input type="checkbox"/> freee人事情報連携 <input type="checkbox"/> cybozu.com人事情報連携 <input type="checkbox"/> 家族の安否確認 <input type="checkbox"/> API人事情報連携 <input type="checkbox"/> 差出人名変更 <input type="checkbox"/> グループ会社との利用	<input checked="" type="checkbox"/> 手動送信 <input checked="" type="checkbox"/> 自動集計 <input checked="" type="checkbox"/> 掲示板・メッセージ <input checked="" type="checkbox"/> LINE連携 (オプション) <input checked="" type="checkbox"/> 災害連動の自動送信 <input checked="" type="checkbox"/> ファイル添付 <input checked="" type="checkbox"/> SmartHR人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> freee人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> cybozu.com人事情報連携 <input type="checkbox"/> 家族の安否確認 <input type="checkbox"/> API人事情報連携 <input type="checkbox"/> 差出人名変更 <input type="checkbox"/> グループ会社との利用	<input checked="" type="checkbox"/> 手動送信 <input checked="" type="checkbox"/> 自動集計 <input checked="" type="checkbox"/> 掲示板・メッセージ <input checked="" type="checkbox"/> LINE連携 (オプション) <input checked="" type="checkbox"/> 災害連動の自動送信 <input checked="" type="checkbox"/> ファイル添付 <input checked="" type="checkbox"/> SmartHR人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> freee人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> cybozu.com人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の安否確認 <input type="checkbox"/> API人事情報連携 <input type="checkbox"/> 差出人名変更 <input type="checkbox"/> グループ会社との利用	<input checked="" type="checkbox"/> 手動送信 <input checked="" type="checkbox"/> 自動集計 <input checked="" type="checkbox"/> 掲示板・メッセージ <input checked="" type="checkbox"/> LINE連携 (オプション) <input checked="" type="checkbox"/> 災害連動の自動送信 <input checked="" type="checkbox"/> ファイル添付 <input checked="" type="checkbox"/> SmartHR人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> freee人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> cybozu.com人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の安否確認 <input checked="" type="checkbox"/> API人事情報連携 <input checked="" type="checkbox"/> 差出人名変更 <input checked="" type="checkbox"/> グループ会社との利用

※51ユーザー以上のご利用や月額料金よりもお得な年間契約の詳細は、ホームページをご覧ください。

<https://anpi.toyokumo.co.jp/price.html>



全国のさまざまな業界の企業が導入

経営者もかんたん、従業員もかんたん、安否確認サービス2がもしもの安否をかんたんにしています。



SmartHR連携に限らず、さまざまな事例が多数掲載中

安否確認サービス2 事例



サービスに関するお問い合わせは、安否確認サービス2 Webサイトへ

<https://anpi.toyokumo.co.jp/>

※他社登録商標・商標をはじめ、当社のサイトその他カタログ、マニュアル等に記載されている会社名、システム名、製品名は一般に各社の登録商標または商標です。
<https://www.toyokumo.co.jp/copyright>
 ©トヨクモ株式会社 | Toyokumo, Inc.

お問い合わせ先

本カタログの記載事項は変更になる場合がございます。

2023年4月版

安否確認サービス2 導入事例

SmartHR連携編



目次

03 導入実績

04 平時のメンテナンスが SmartHR連携でもっと簡単に

06 被災情報の収集から集計を自動化 オンラインで対策会議もできる

08 ユーザー事例4選

事例1 株式会社マクアケ

従業員が安心できるBCPを策定
ハイブリッドワークでも安否確認を迅速に

事例2 バルテス株式会社

総務部が主体となって「安否確認文化」を構築
一斉訓練で回答時間の最頻値 60秒という結果を出す

事例3 Ubie株式会社

防災対策やBCP策定に加え
福利厚生充実にも一役買う安否確認サービス2

事例3 弁護士法人東京新宿法律事務所

最低限のコストと労力で
最高の防災対策を

16 大災害でも稼働する、稼働するから導入が進む

18 無料お試し・導入相談

3,000社以上が導入中

経営者もかんたん、従業員もかんたん、安否確認サービス2がもしもの安否をかんたんにしています。



30分ほどで回答をいただいているような印象で、よりスピード感を持った運用ができていると感じています。

マクアケ/田中さん



休日や夜間などの営業時間外であっても迅速に情報収集することが可能になりました。

バルテス/久保田さん



デバイス情報を会社が管理する必要はない、という点に非常に大きなメリットを感じています。

Ubie/相澤さん



全員漏れなく登録できている状態です。結果的に導入の初期設定としては合計2時間足らずで完了しました。

東京新宿法律事務所/染谷さん

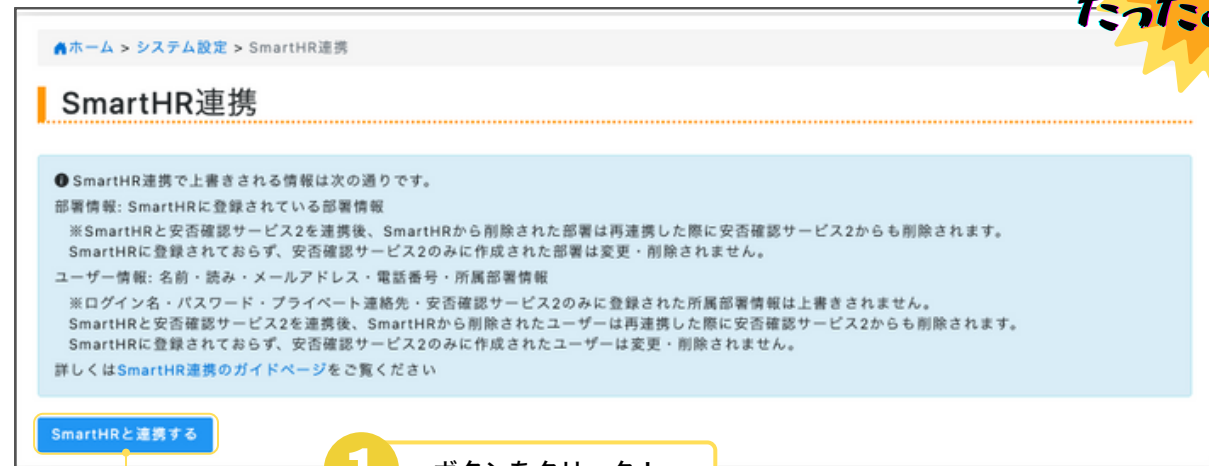
平時のメンテナンスがSmartHR連携でもっと簡単に

SmartHR連携でボタン1クリックで従業員や部署情報などを簡単メンテナンス

安否確認サービス2は、3年連続シェアNo.1 (※) のクラウド人事労務ソフト SmartHR と連携して利用できます。

この連携により、SmartHRに登録されている従業員情報を、安否確認サービス2にシームレスに取り込むことが可能となります。クラウドサービスの運用で手間がかかる、人事・労務担当者が手作業で行う従業員情報の更新や入社者情報の登録は、安否確認サービス2内に設置されたボタンよりワンクリックで同期され、従業員情報の二重管理の手間を無くし効率化を促進します。

設定!
たったこれだけ



1 ボタンをクリック!



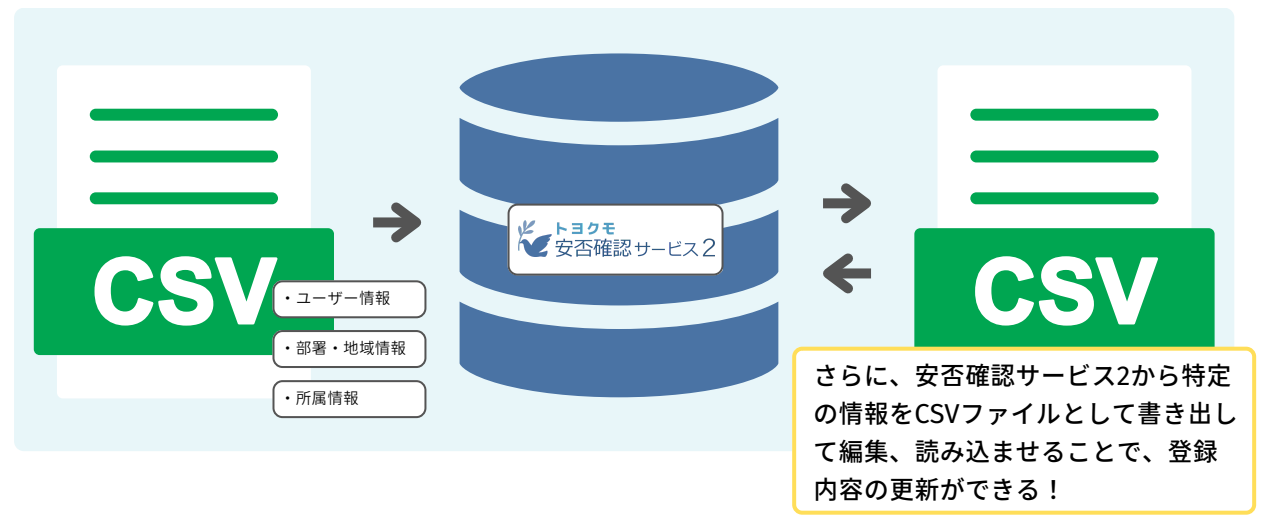
2 SmartHRにログイン

3 連携を許可

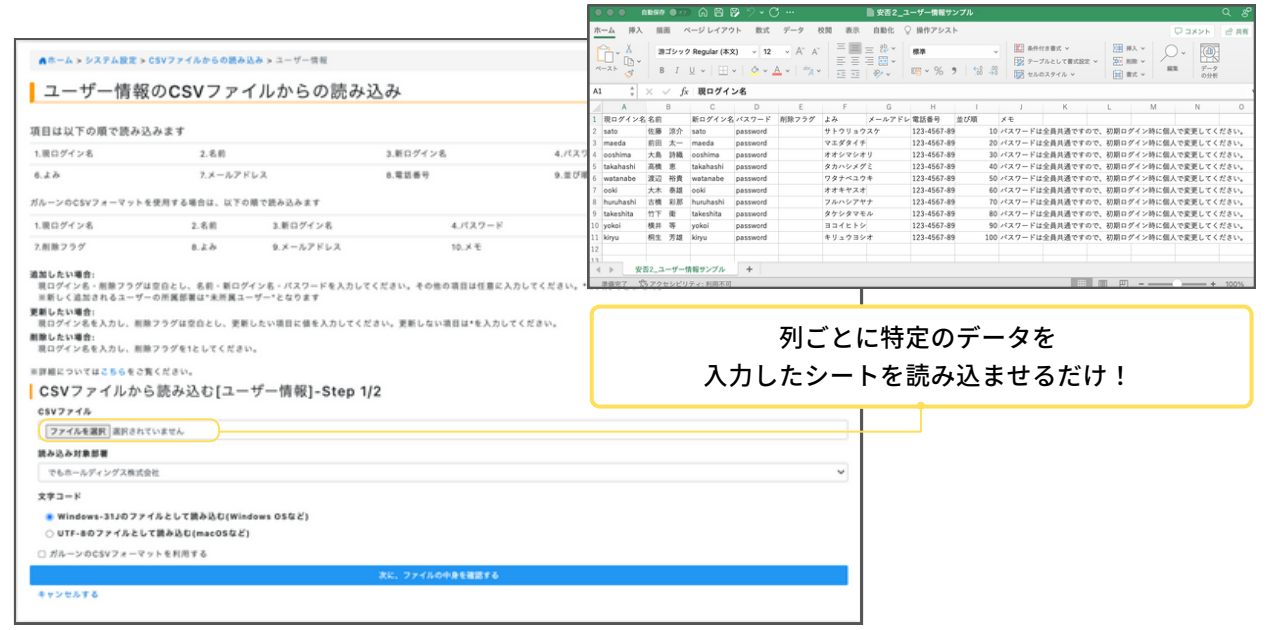
SmartHR連携サービスを利用するためには、安否確認サービス2ライトプランより上位のプランのご契約が必要です。また、各種連携サービスの利用料金が別途必要です。

CSVファイルの読み込みで従業員や部署情報などの一括更新もできる

CSVファイルを読み込んで、ユーザー情報、部署・地域情報、所属情報などをそれぞれ一括登録・編集することができます。



CSVファイルの読み込み画面と実際のファイル



列ごとに特定のデータを入力したシートを読み込ませるだけ!

SmartHRさんの取材より

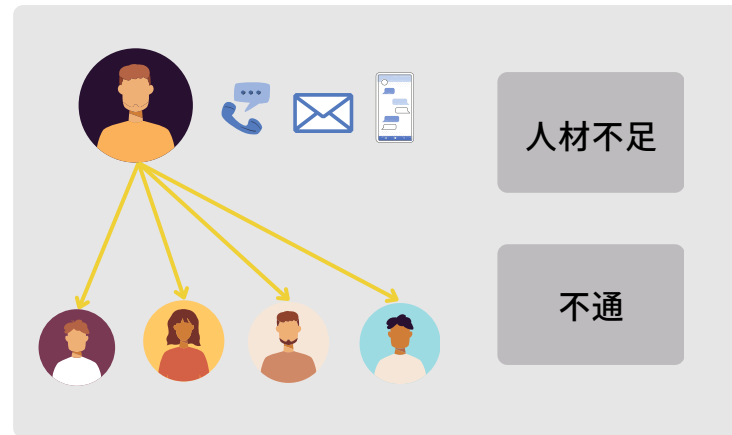
「SmartHR」と「安否確認サービス2」が連携したことで、私たちのお客様もとても便利になると思っています。特に、従業員情報を都度手動で出し入れして登録しなければいけなかったところが、「SmartHR」で入社手続きをしたら、「安否確認サービス2」に自動的に登録できるようになります。業務負担が減り、生産性の向上に寄与してくれると思います。



会社Opsグループ 村川さん

被災情報の収集から集計を自動化、オンラインで対策会議もできる

1 人材不足、連絡の不通で安否情報などの収集ができない

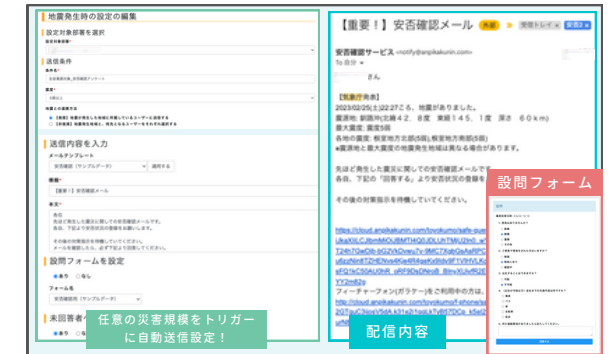


特定の担当者が災害時に電話やメール、SNSで従業員の安否確認や取引先の被災状況を確認すると膨大な時間がかかる。タイミングによっては、通信回線の輻輳で不通になることも少なくない。

安否確認サービス2で解決！ システムが担当者に代わって、安否確認を自動化！



気象庁の地震/津波/特別警報の発令に連動した、メールの自動送信の設定ができます。連絡の手間や漏れ、時間外労働を削減することができます。



送信条件の項目、メールや設問フォームのテンプレートを選ぶだけ。簡単に自動送信の設定を作れます！

2 回答の集計に時間がかかって、報告が遅れる



電話やメール、SNSなどさまざまなフォーマットで情報を受け取り、Excelなどにまとめるのは大変。入力ミスや漏れに注意する必要がある。

安否確認サービス2で解決！ システムが担当者に代わって、集計を自動化！

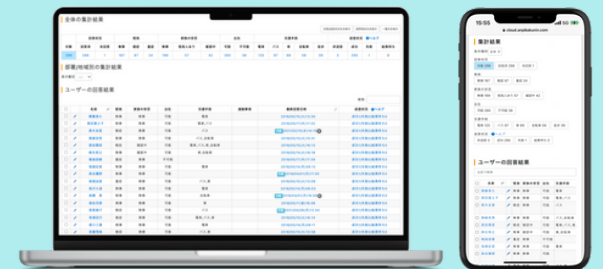
設問フォームに回答があると管理者に通知が届きます！



自動送信してから10分後に管理者に対して、集計結果の案内メールが送信されます。

ID/パスワードの入力不要！クリックするだけで集計画面にアクセスします。

自動集計の結果をさまざまな端末から確認できます！



出社をしていなくても手元にある端末から集計画面にアクセスすることができます！

3 出社ができず、コミュニケーションが取れない



通信回線の輻輳で、円滑なコミュニケーションが取れず、事業復旧の対策を議論することができない。また、従業員へ情報伝達が遅れ、一時的に事業が停止してしまうこともある。

安否確認サービス2で解決！ オンラインでどこでも対策会議ができる！



LINEのような感覚でコミュニケーション！ファイル添付もできる！



最大200ユーザーを宛先に指定できるコミュニケーション機能です。防災担当者の議論スペース、各部署の連絡用、1対1のやり取りなどに活用できます。

事例1

従業員が安心できるBCPを策定 ハイブリッドワークでも 安否確認を迅速に



	株式会社マクアケ	
	事業 新商品及び新サービスの応援購入プラットフォーム 「Makuake」を中心とした各種支援サービスの運営など 従業員数 200名(2022年12月末時点)	お話を伺った方 IT戦略チーム 山田さん 人事部総務 田中さん

課題

GoogleフォームやSlackを使った
人力の安否確認に災害時多くの時間を割いていた

効果

全国各地に点在する社員に対し、
迅速な安否確認が可能になった

1時間かかっていた安否回答の集計時間は0に

トヨクモ主催の一斉訓練で防災の見直しに関するPDCAを回す

詳細はこちら

<https://anpi.toyokumo.co.jp/case/makuake/>

企業の規模拡大に伴って災害時の安否確認の体制を再考

一導入を検討した理由は何でしたか？

田中さん：総務は人事部の中に属しており、社員の職場環境をより良くしていくことを目的としています。社内向けに業務改善を推進していくのですが、その中で安否確認もミッションの1つとなっています。

今回、私含め総務や労務中心に話し合ってきたのですが、基本方針として「従業員の安全を守る」「自社の経営を維持する」「顧客からの信用を守る」ということを3本柱に定め、災害が起きた際に社員がどういう状況にあるのか、事業を継続するためにどれだけの人数が動けるのかといった情報を迅速に把握するために「安否確認」を第一ステップとして考え、トヨクモの安否確認サービス2を導入しました。

山田さん：IT戦略チームとしては、社内の全てのパソコン、アカウント管理、業務改善から問い合わせへの対応までITでできること全てをサポートするというのをミッションとしています。どちらかというと、社内の人向けにIT技術を使って改善させるというイメージですね。

もともと、災害時の安否確認はGoogleフォームで作成した安否確認フォームをSlackでオールメンションし、各自回答してもらうという流れでした。当時は社員数が100名未満と少なかったのですが、徐々に規模が拡大してきてきたこともあり、色々な手段で安否が確認できる、かつ安定しているシステムを導入しようということで、トヨクモの「安否確認サービス2」を選びました。

自動集計機能と自動再通知機能で業務負担を大幅軽減

一安否確認サービス2はどのように使っていますか？

田中さん：フリーロケーション制度に加え、弊社の営業は全国に出張に行く機会が多くあります。そのため、地震などが起こった時にどこにいるかわからないというのも、全国設定している理由の1つです。地方拠点が少ないほぼ会社にいる、常に移動しているという営業担当者も多いので、現時点では全国設定が有効と判断していますね。

一導入した効果を感じていますか？

田中さん：訓練ベースにはなるのですが、Googleフォームで運用していた頃は、基本的に皆さん回答するまでに平均1時間ほどかかっていたと思います。しかし安否確認サービス2を導入してからはメールが配信されて30分ほどで回答をいただいているような印象で、よりスピード感を持った運用ができています。

山田さん：Googleフォームを使って安否確認を行っていた時は、結局社員マスタと照らし合わせないと誰が未回答なのか分からなかったという課題がありました。しかし安否確認サービス2導入後、弊社ではユーザー登録している人に対して発布するという設定にしているため、未回答者がすぐに把握できるんですね。その中で、エラーが出ているユーザーや何らかの不具合で通知が到達していないユーザーも一目で分かるので、改めて再登録を促すのも非常に楽になっています。とにかく、結果を見れば個人が特定できるというシステムになっているのが素晴らしいですね。

かつ、SmartHRと自動連携もオプションで入れているので、入社タイミングで漏れなくユーザー登録ができるようになっています。実際は部署設定や地域設定をしなければならぬので、そこは少し手間がかかるのですが、細かいメンテナンスも必要ありませんし負担は減ったと感じています。

関わってくださる方々からの信頼を守りつつ、 企業価値も向上させたい

一弊社主催の一斉訓練に参加いただきましたが、いかがでしたか？

山田さん：今回、一斉訓練に初めて参加してレポートの詳細をいただいたのですが、数値化して他社さんと比較できたり、全体平均と自社の比較ができたりした点で、すごく参考になりました。来年も参加することで、今度は今年の自社の記録と比較できるので、新たな啓業が必要なのか、メール内容を変更した方がいいのか、といった振り返りによりPDCAが回せるようになってくるのではないかと考えています。もし継続的に一斉訓練を開催していただけるのであれば、ぜひ毎年参加したいです。

田中さん：一斉訓練への参加はもちろんなのですが、それと同時に社内でも実際に身体を動かして訓練できたらと考えています。一斉訓練を通して、社内での意識付けも徹底していきたいところです。

一最後に、今後のBCP対策、防災・減災対策について教えてください。

山田さん：BCPを策定したばかりということもあり直近でのアップデートは想定していませんが、今後事業が拡大すれば、その動きに合わせてBCPも半年に1回程度のペースで見直しをしていく必要があると思います。

弊社では、社員の安全を守るということを第一に掲げていますので、そういった側面から考えても、万が一の際は安否確認が最優先事項だと考えています。また、今後働き方がどう変化していくかわからないという情勢なので、安否確認サービス2を運用しつつ、緊急時の動き方についても引き続き課題を持って向き合っていきたいです。

ご担当者様から一言

前提として、災害によって弊社が事業を継続できなくなることで、関わっている方々にご迷惑をおかけしないようにしたいということがあります。「Makuake」のプロジェクトは期間に制限があり、万が一途中で止まってしまうと実行者にとってもサポーターにとっても機会損失が発生します。有事の際にも事業を継続できるかというのはプラットフォームとして重要ですので、「安否確認サービス2」でBCPを強化して、ユーザーやサービスに関わる方たちの信用も損なうことなく、弊社としての企業価値も向上していけるような流れを作れたらいいと考えています。


人事部総務 田中さん



事例2

総務部が主体となって「安否確認文化」を構築。一斉訓練で回答時間の最頻値 60秒という結果を出す



	バルテス株式会社	
	事業 ソフトウェアテストサービス、セキュリティ・脆弱性診断サービスなど 従業員数 756名(2022年9月末時点)	お話を伺った方 総務部 久保田さん

課題

- 連絡網の管理が煩雑になり、情報の正確性が低い
- 休日・夜間の安否確認の体制を構築できない
- 安否確認の業務負担が大きい

効果

- 連絡網の更新業務を大幅に削減
- 安否確認を自動化して、休日・夜間の迅速な情報収集を実現

詳細はこちら

<https://anpi.toyokumo.co.jp/case/valtes.html>

いざという時でも事業を継続するために安否確認サービス2を導入

一安否確認サービス2導入の背景を教えてください。

久保田さん：2011年の東日本大震災をきっかけに災害時の安定した事業継続、迅速な復旧を目標に従業員の安否確認を電話やメールで実施する仕組みを整えていましたが、連絡網をペーパーで管理していたため、情報更新の手間や情報の正確性に欠けるという課題がありました。

また、災害が発生した際は緊急対策本部の担当者が社内イントラの掲示板に災害情報を投稿、その内容を元に緊急用のメーリングリストを使用して安否確認メールを配信していたのですが、休日や夜間の対応方法は定まっておらず、いざという時に後手に回ってしまうのではという不安もありました。

一情報管理、安否確認の体制に課題があったようですね。

久保田さん：災害時に従業員の安否確認ができなかったり、遅れたりした場合、自社サービスの提供が一時的にできなくなってしまう可能性もありますので、安否確認は重要だと思っています。

事業継続・復旧といったBCPの視点から、どのような状況でも確実に全従業員の安否確認を行いたいと思いシステムを探していました。

一安否確認サービス2の導入で、とくに重視されたポイントを教えてください。

久保田さん：最優先の目的は「連絡網の管理の手間を減らす」「休日や夜間も安否確認をすることができる」でした。また事業が拡大して従業員数が増加したことにより、災害時の安否確認などの業務負担が大きくなっていったため、事業継続や復旧の人材リソースを確保するためにも「安否確認・回答結果の集計の手間を減らす」ことが重要だと考えていました。

安否確認サービス2は、人事情報を登録すれば自動で連絡網が作成されて、安否確認から集計も自動でできるため、目的の実現性が高く、使ったことがない人でも「操作画面を見るだけで直感的に」使えるシステムであったことが決め手となり、導入しました。

連絡網の更新作業を自動化。安否確認の情報収集力が向上した

一安否確認サービス2導入後の変化について教えてください。

久保田さん：システム上にデジタルの連絡網が構築できて、情報の更新も自動的に従業員に指示する仕組みがあり、更新の業務を大幅に削減、情報の正確性も確保できました。この連絡網は、人事情報の登録をすると自動で作成される仕組みで、弊社はSmarterHRというクラウド人事労務ソフトを導入していたこともあり、安否確認サービス2とボタン一つで同期して簡単に作成することができました。

また、地震や津波、特別警報に連動する自動一斉送信機能の活用することで、安否確認を自動化することができました。安否確認サービス2は、管理者と従業員が個々に登録した地域情報に紐づいて、安否確認メールが自動で配信されます。安否確認メールの設定は、トリガーとなる災害レベルや連携方法などの項目ボタンを選択するだけで登録することができるので

とても簡単で助かっています。

さらに、所属する地域を従業員が自由に登録できるため、出張する従業員が出張先となる地域を登録すれば、その地域情報に合わせて安否確認メールが配信されます。これらの安否確認業務が自動化されたことで、休日や夜間などの営業時間外であっても迅速に情報収集することが可能となりました。

その他に 掲示板 や メッセージ という、災害時に従業員と安否確認サービス2でコミュニケーションを取れるチャット機能もあり、事業を継続するために必要な機能が揃っていると感じています。トヨクモさんが提供しているマニュアルを参考にして、自社独自のマニュアルを作成し展開したことで従業員のサービス理解の促進にも繋がりました。さまざまな視点で業務工数を削減できたと実感しています。

一斉訓練で回答時間の最頻値 60秒という結果を出す

一安否確認サービス2導入で、新しく取り組んだことはありますか。

久保田さん：安否確認サービス2を導入して運用開始の準備が整った2022年7月以降に2回、安否確認訓練を実施しました。7月は大雨、8月は地震を想定して、安否確認や出社可否などの設問を事前に用意しました。訓練では、実際の流れを想定して、未回答者にはリマインドを行ったり、災害対策本部を設置して役員も交えて結果の確認や運用体制の見直しを行ったりした結果、7月より8月の安否確認訓練の回答率が高くなりました。

訓練後には、回答のリマインドをしても反応がない従業員に対して、所属の管理職から回答の催促を行い、それでも回答がない場合には総務部が直接コミュニケーションを取り、安否確認メールに回答するよう指導をしました。従業員に面倒だと感じさせてしまうかもしれませんが、万一の際に全従業員・会社を守るために必要な業務と考え対応しています。

トヨクモさんが2022年9月1日に開催した一斉訓練には、従業員へ日付を明言しない状態で参加し、結果的に当日の回答率が91.2%、回答時間の最頻値は1分と参加企業の平均8.9分を大幅に上回る結果がでて、安否確認訓練の成果を実感することができました。バルテスに安否確認文化が根付き始めたようで、とても嬉しいです。

ご担当者様から一言

さまざまな危険から従業員を守る体制を確立して、バルテスのサービスをご利用いただく皆様に継続してサービスを提供できるように、従業員の安否情報の収集から事業継続・復旧の統制に安否確認サービス2を活用しようと考えています。

また、半期に一度災害を想定した安否確認訓練を実施するなどして、安否確認文化が途絶えないよう活動を続けていきます。

総務部 久保田さん



事例3

防災対策やBCP策定に加え 福利厚生充実にも一役買う 安否確認サービス2



	Ubie株式会社	
	事業 医療プラットフォーム事業	お話を伺った方 総務部 相澤さん
	従業員数 220名(2022年10月末時点)	

課題

- Slackで安否確認をしていたが従業員ごとに通知の出しわけができず、自分ごと化できないため、回答が少なかった
- 事業規模の拡大で、安否確認における人事情報の管理や運用体制が煩雑になっていた

効果

- 従業員の所属地域に連動して適切に安否確認の通知が配信されるようになり、回答が増加した
- SmartHR連携で人事情報のメンテナンスは月に一度になり、管理工数を大幅に削減

詳細はこちら

<https://anpi.toyokumo.co.jp/case/ubie>

災害時に従業員とご家族の安否確認をサポート

—安否確認サービス2導入のきっかけや背景を教えてください。

相澤さん：実は、私が入社した1年ほど前までは、防災対策やBCP対策が整っていませんでした。スタートアップ企業ではよくある話ですが、少人数でスピード感を持って事業を回すということに集中すると、優先度が下がりがちです。ですがそこから社員規模も大きくなり、毎月10名単位でスタッフが入社してくる中で安否確認における人事情報の管理や運用体制が煩雑になり「このままではいけない」と危機感を抱いて、安否確認システムの導入を検討し始めました。

当初はSlackで設定震度以上の地震が発生した際に自動アナウンスが届くようにしていたのですが、エリア設定ができず、自分に関係のない地域で起きた災害情報も全員に通知が届いていました。そうして度々送られる「不要な通知」が増えることで、安否確認自体が真摯に受け取られなくなってしまふ懸念があったというのも導入を考えた理由の一つですね。加えて、トヨクモさんの安否確認サービス2は家族情報まで登録が可能です。家族の安否確認まで会社がフォローできれば、福利厚生の充実にもつながると考えました。

—Slackで安否確認をされていたんですね、当時の運用と安否確認サービス2との違いを教えてください。

相澤さん：Slackの場合、例えば遠方で起こっている災害は自分に関係がないから返信しない、何の反応もないといった人も多かったのですが、安否確認サービス2の場合は自分に直接関係のある災害について、ピンポイントで安否確認メールが来る仕様です。よって、それぞれが自分事として捉えられるようになり、それが回答数増加という結果につながっていると感じています。Slackで配信していた時は、安否確認のフォームが貼られており、それぞれがフォームに記載したら「済」のスタンプを付けるという流れでした。スタンプの数を見れば回答数は分かるのですが、被害の内容や重症度などは詳細を確認しないと分からない、つまり細分化された情報は瞬時に確認するのが難しい状態でした。

それが安否確認サービス2を導入したことで、本人が今どこでどういった状況にあるのかといったより細分化された情報を集約できるようになりました。

手間をかけないで、自社の運用に合わせたカスタマイズ

—安否確認サービス2を導入されて、効果は実感されていますか。

相澤さん：それぞれの社員に対してカスタマイズした安否確認設定が可能ということ、さらにそのカスタマイズを社員自身ができることですね。

当社は東京に本社があるのですが、全国に社員が点在しています。管理側が全員の居住地を把握して個別に設定するという手間がなく、本人が個々に自身の地域を設定できるのとても良いですね。また、当社には複数の組織があり、中には従来のヒエラルキー型、階層型の運営ではない、ホラクラシー型の組織も存在します。そうすると、いわゆる「上司が安否確認管理者」というスタイルが適応されないで、いざという時に誰が安否確認管理者として立つのかをあらかじめ決めておく必要があります。

安否確認サービス2では複数の管理権限設定も非常に簡易で、マネージャークラスには閲覧権限を与える一方、社員にも一般的な権限を付与するといったように、運用の自由度が高いという点も当社に合っていたのだと思います。また、今後さらに国内だけでなく海外拠点のスタッフも増えていく予定なので、システムが多言語に対応しているという点も非常にありがたく、活用していきたいと考えています。

トヨクモ主催の一斉訓練に参加して防災意識の改善、強固なBCP対策を推進

—トヨクモ主催の一斉訓練に参加いただきましたが、どのような効果がありましたか？

相澤さん：トヨクモさんから非常に詳細なレポート結果をいただけたので、そのまま社内内で開示しました。社員からは「安否確認ってなるべく早く答えた方がいいんだね」「こんなに回答率が高いんだ！」といった反応があり、個々の意識改善につながる非常に有意義な試みだったと感じています。

Slackの場合、どうしてもスタンプを使ってカジュアルに返信したり、災害が起きても親身になれなかったりといった印象だったのですが、今回の一斉訓練で結果を可視化したことで、個々の防災意識を高めるとともに、災害に対して真摯に対応するという意識が醸成されたように感じます。今後の一斉訓練にも、ぜひ参加させていただきたいです。

ご担当者様から一言

社員数や事業規模も拡大していく中で事務所を移転することも考えており、このタイミングで改めてBCP対策や福利厚生面での整備などを進めている状況です。その中で、ハード面での対策とソフト面での対策両輪でやっていくことが、強固なBCP対策につながると考えています。

今後、その情報面を安否確認サービス2に担っていただき、物理の方は我々総務をはじめとするコーポレート部門が尽力するといった形で進めていきたいと思います。


総務部 相澤さん






事例4

最低限のコストと労力で 最高の防災対策を






 <p>弁護士法人 東京新宿法律事務所 TOKYO SHINJUKU LAW OFFICE えがおでいよう。</p>	弁護士法人東京新宿法律事務所	
	事業 一般個人・消費者を顧客とした弁護士による 法律業務 従業員数 150名(2023年3月末時点)	お話を伺った方 労務課 染谷さん

課題

-  無料アプリを利用していたが回答率が低く、メールの不通も発生していた
-  人力で対応していたため、担当者の負担が大きかった
-  安否確認の回答を促すリマインドに時間と手間がかかっていた

効果

-  回答率が向上、メールの不通も解消
-  安否確認の作業時間を大幅に短縮
-  3日間ほどかかっていたリマインド作業が0になった

詳細はこちら <https://anpi.toyokumo.co.jp/case/shinjuku-law.html>

災害時、迅速に弁護士と職員の安否状況と 案件対応の可否を把握する

—安否確認サービス2導入のきっかけや背景を教えてください。

染谷さん：当法人のクライアントは全国各地にいらっしゃるため、弁護士が出張して面談を行うことも多くあります。こちらが被災し、弁護士が地方へ出張できないとなると相手に大きな不安を抱かせることになるため、いざという時に対応の可否を把握するためにも安否確認システムが必要だろうということで前向きに検討を始めた形です。

また、当法人には複数の部署があるのですが、以前はそれぞれの被災状況を把握できず「誰かが対応しているだろう」といった予測で動くしかありませんでした。各部署内ではLINEなどを使って連絡を取り合っていました。部署同士の繋がりが一切なかったため、その点も安否確認システムを導入するきっかけになりました。

—安否確認システム導入前の安否確認方法と、当時の課題について教えてください

染谷さん：はじめは無料の連絡網アプリを利用していたのですが、回答率が悪い、連絡に気付かない、メールが届いていないといったことが頻発しました。そこで、別のシステムの申請機能を利用して安否確認を行うことにしましたが、リマインドをして、やっと半数が回答してくれる程度で、安否確認としての意味を果たしているとは言えませんでした。

そもそも「申請機能」なので、地震が発生した際は100%人力ですし、時間やタイミングに関係なく担当者が震度を確認し配信するというのを繰り返すのは負担も大きく、何より担当者が被災してしまうと、安否確認を行う術がなくなってしまうという不安感が常にありました。

すべての要望を満たしてくれた『安否確認サービス2』を選択

—トヨクモの安否確認サービス2を選んでいただいた決め手について教えてください。

染谷さん：必要だと思っていた機能がすべて備わっていたというのがありますが、トヨクモの『安否確認サービス2』が圧倒的に使いやすかったです。マニュアルを見なくても画面が分かりやすく、なんとなく触っただけでネクストアクションが分かるという感覚です。トライアルの時点でトライアル参加者にアンケートを取ったのですが、関係者目線・ユーザー目線双方から「分かりやすい」と評価されたのは『安否確認サービス2』だけだったこともあり選定するに至りました。

—導入するにあたって、どのような点で手間や苦勞を感じましたか？

染谷さん：トライアル期間中に部署設定を済ませていたこともあり、もともと利用していたSmartHRからボタン1つでシステムとの連携が完了したので、

導入にあたって苦勞した記憶はありません。部署設定を行った際も、ココから登録するのかなというなんとなくの感覚で操作したら登録が完了したというほど簡単でした。

—導入した成果について、導入前と比べて何らかの変化を感じていらっしゃいますか？

染谷さん：月に1回自動で連絡先を確認する通知が届くのですが、通知可否の確認だけでなく、そのメールを通じて日常的にシステムや防災に対する意識付けができるようになったことが良いと感じています。万が一災害が発生した際、焦らず対応できるという安心材料になっていますね。実は導入前、部署内はLINEでやり取りできていたこともあり、安否確認システムの導入には消極的な意見が多くありました。しかしシステム導入後、部署同士が状況を把握し合える環境を構築したことで横の連携が取りやすくなり、『安否確認サービス2』の価値を理解していただけたように感じます。

少しの労力で必要な備えをする

—災害や訓練などで活用されましたか？

染谷さん：昨年システム導入後にトヨクモさん主催の一斉訓練に参加しました。システム導入を周知したいタイミングで参加できてよかったです。ユーザー側は実際に操作できますし、管理側にも手軽に集計結果が見られることを知ってもらった機会となりました。

やはり独自で訓練を行うとなると企画から案内まで非常に手間がかかりますが、一斉訓練の場合は周知するだけで完了したので、あらかじめ自動一斉送信の効果を感じましたね。

コロナ禍で中止となっていたビルの防災訓練が今年から再開されるので、その時に『安否確認サービス2』を使用する予定です。安否確認だけでなく、掲示板やメッセージ機能の利用なども周知し、ユーザーの声を改めて聞きたいと思っています。

ご担当者様から一言

会社が46階に位置していることもあり、災害への危機感や準備の必要性は常に感じていました。日々の整理整頓、防災備蓄の管理、自衛消防隊の訓練など、当法人の防災意識は高いと思いますが、安否確認においては課題を抱えている状態でした。いつ発生するか分からない災害への備えに対し、常に全力を費やすことは難しいため、少しの労力で必要な備えをするというのが理想です。安否確認サービス2を活用して安心できる環境を維持できるよう努めていきたいと思っています。

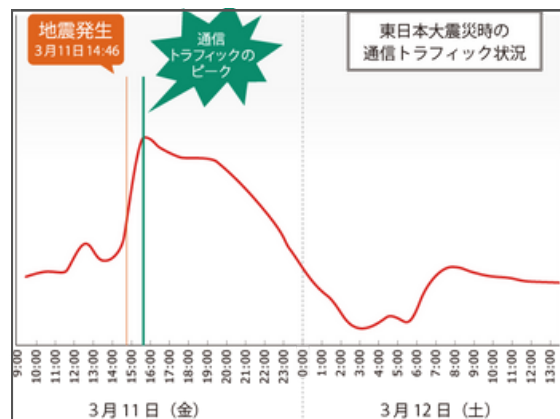
労務課 染谷さん



大災害でも稼働する、稼働するから導入が進む

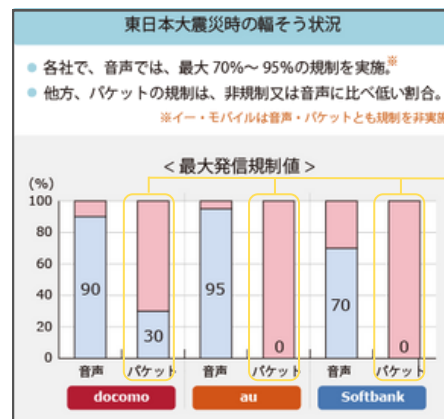
通信回線が輻輳する前に自動でアンケート付きのメールを送信

通信トラフィックのピークは発災後30分~1時間後にピークを迎えます。それまでにメールの配信を完了させることを目標としております。



※安否確認サービス2は、毎分100万通以上のメールを配信できる、SendGrid（セントグリッド）というメール配信システムを利用しています。

大規模災害時でもほとんど規制されることのない**パケット通信**のみで回答できる、ウェブ回答方式を採用しています。

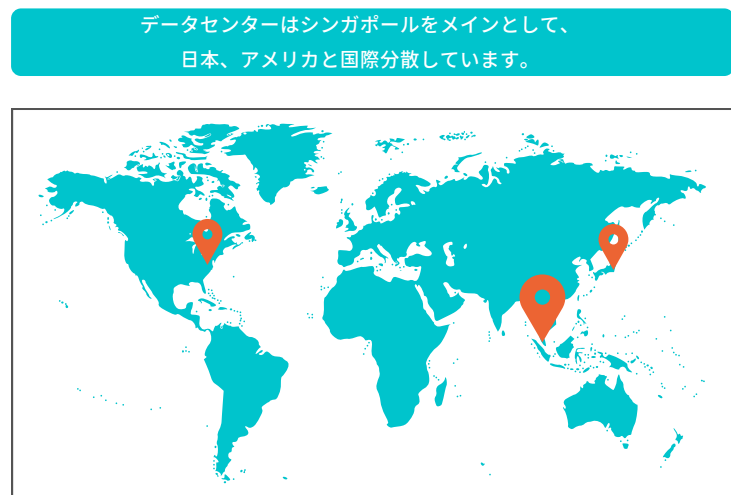


大手通信キャリア2社で規制されていない。

国内の災害を想定したシステム構成サーバーを国際分散

世界最大のクラウドサーバー事業者である、アマゾン ウェブ サービス（AWS）のデータセンターを利用しています。AWSは、**世界最高水準のセキュリティ**誇っており、国内の金融機関や米国政府なども利用しています。

建屋の耐久性や入退室管理、サーバーの監視などは厳格なルールに則って運用されており、**1年を通じて2,600を超える要件**について、外部の監査機関による監査を受けています。



※シンガポールは、直近の100年間で地震が観測されておらず、津波被害の記録もありません。距離的にも日本と比較的近く、電力事情も安定していることから、当社ではあえてシンガポールのデータセンターをメインとしています。

取得している認証
トヨクモ/AWS

- ISMS-AC (情報セキュリティマネジメントシステム)
- ISO 27001 (セキュリティ 管理者による統制)
- ISO 27018 (個人データ保護の国際規格)
- ISO 27017 (クラウド固有の統制 国際規格)
- ISO 9001 (グローバル品質基準)
- AICPA SOC (内部統制にかかわる保証報告書)
- CSA cloud security alliance (クラウドセキュリティ アライアンスの統制)

負荷検証を兼ねた全契約社対象の一斉訓練

毎年9月1日(防災の日)の前後にご契約中の全ユーザーを対象とした、全国規模で一斉訓練を行っています。

この一斉訓練では、**実際の災害に近い、またはそれを超える規模でシステムに負荷をかけることで、システムが災害時に本当に稼働できるのかを、**お客様ご自身の目で確かめることができます。

更に参加された企業には、回答率の時間推移や 訓練全体の平均回答時間をまとめた**訓練レポートが無償で提供されるため、防災意識を高めるきっかけにもお役立ていただけます。**

一斉訓練の実績

2021年度

・31万1,987名へ一斉送信
13時に約14万ユーザーがシステムへアクセス、障害や遅延なし。

2022年度

・44万1,292名へ一斉送信
11時に約17万ユーザーがシステムへアクセス、障害や遅延なし。

Good安否確認賞2022 最優秀受賞企業様の声

四半期に1度、グループ全体で安否確認の一斉訓練を実施しています。回数を重ねるたびに回答スピードや回答率は向上しているのですが、予告なく発生する自然災害に対しても社員が迅速に対応できるのか、また、管理者が結果を随時把握できるのか、という懸念がありました。「安否確認サービス2」の一斉訓練では、**多くの会社様と同様の条件で、さらに開始時刻が予告されないため、当社社員の対応状況の位置付けが分かり、その後の社内防災体制改善に役立つ**と考えました。また、自グループ内で実施する訓練と比較し、緊張感を持って臨めるという点も有意義だと感じています。



株式会社ガスパル 取締役 黒澤さん

安否確認サービス2の自動配信実績

誤報判定のため災害発生後10分間の時間を置いてから、自動一斉送信を開始しています。これは、気象庁が誤報を発報した際に誤った自動送信を防ぐための機能となります。

発生日時	災害種別	災害発生地域 (地震は震央)	最大震度 (波高)	配信完了日時	要した時間
2023-02-25 22:27	地震	新潟沖	震度5弱	2023-02-25 22:41	14分
2022-11-09 17:40	地震	茨城南部	震度5強	2022-11-09 17:54	14分
2022-10-21 16:19	地震	福島沖	震度5弱	2022-10-21 16:31	12分
2022-10-02 00:02	地震	大隅半島東方沖	震度5弱	2022-10-02 00:16	14分
2022-09-18 21:05	特別警報(大雨)	宮崎県北部山回り		2022-09-18 21:18	13分
2022-09-18 18:56	特別警報(大雨)	宮崎県北部平野部、宮崎県北部山回り		2022-09-18 18:48	13分
2022-09-18 16:51	特別警報(大雨)	鹿児島県大隅		2022-09-18 16:42	11分
2022-09-18 16:06	特別警報(大雨)	宮崎県南部平野部		2022-09-18 16:18	13分

誤報判定後4分で配信

安否確認サービス2では自動配信実績を公開しております。平成30年北海道胆振東部地震では地震発生から自動メール配信完了まで、10分（誤報判定時間除く）という結果でした。配信実績を公開していないサービスが多く不透明であるからこそ、導入検討時にご確認いただきたいです。

自動配信実績の確認はこちらから！

2017年6月20日からの配信履歴を確認することができます。

<https://anpi.toyokumo.co.jp/function/data.html>



安否確認サービス2で安否確認について

詳しく知りたい方へ！

安否確認サービス2で「安否確認」を

試したい！

安否確認サービス2で「安否確認」を

相談したい！

1 安否確認サービス2の無料お試しを申し込もう！

お試し申し込みURL

<https://anpi.toyokumo.co.jp/trial.html>



※無料お試しは、申し込みいただいたプランで全ての機能を検証いただけます。

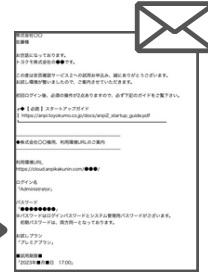
※安否確認サービス2のお試し期間中は、支払いに関する情報は伺いませんので、終了後に自動的に課金されることはありません。

※無料お試し終了後に再度申し込みすることで、何度でもお試しできます。



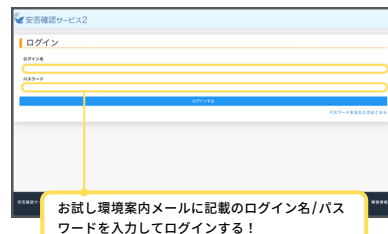
お申し込みフォームに従って入力

お試し申し込み完了後に担当スタッフよりご連絡します。その後、お申し込みの内容に合わせて、メールでお試し環境をご案内します。

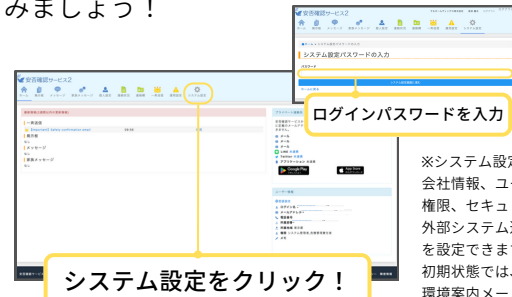


2 スタートアップガイドに沿って、機能を体験しよう！

お試しに申し込みした方は、スタートアップガイドに沿って、まずは自分のアカウントを登録！基本機能を使ってみましょう！

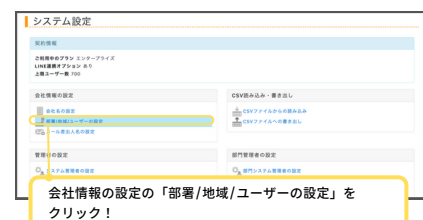


お試し環境案内メールに記載のログイン名/パスワードを入力してログインする！



システム設定をクリック！

※システム設定では、会社情報、ユーザーの権限、セキュリティ、外部システム連携などを設定できます。初期状態では、お試し環境案内メールに記載のパスワード入力してアクセスできます。



会社情報の設定の「部署/地域/ユーザーの設定」をクリック！



Administratorの名前/ログイン名/パスワード/メールアドレスを編集して自分のアカウントを作り、お試しをはじめましょう！

初期設定を30分で完了する

別冊：

初期設定が「30分」で終わる安否確認サービス2スタートアップガイド

トヨタモに相談する

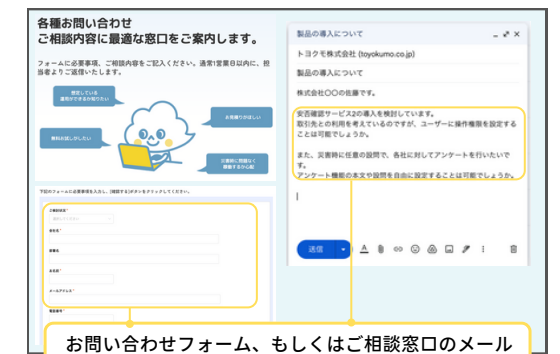
電話相談

専門のスタッフが疑問やご相談をお伺いして、お客様に合わせてサポートいたします。



メール相談

不明点や気になる点など、導入に関する相談をメールで気軽に相談できます。



お問い合わせフォーム、もしくはご相談窓口のメールアドレスにお問い合わせください。

詳しくは

安否確認サービス2 相談



ご相談窓口はこちら！

安否確認サービス2の運用、導入について
お気軽にご相談ください



<https://anpi.toyokumo.co.jp/inquiry.html>

050-3816-6666

9:00~18:00

toyokumo@toyokumo.co.jp

土日祝を除く